

山花の『恵み』



釧路市立山花小中学校
 校長 濟藤 和彦
 担当者 下村 伸大

1. 本校ESDの特徴

本校は、釧路市の郊外に位置し、背後にある学校林では、ウグイスやカッコウなどをはじめとする野鳥のさえずりやセミの鳴き声が響くといった自然に囲まれた環境の中にあります。

隣接する山花公園には釧路市動物園があり、小学生は動物たちの獣舎の掃除やえさやりの準備など、動物園をフィールドとした学習に取り組んでいます。

また、校地内には16a(40m四方)の農園を備え、子ども達自身が育てたい作物を決め、地域の方々や教師の協力の下、春の畑おこしから秋の収穫祭まで、継続的に栽培に取り組んでいます。

これらの本校の活動を「生命」「自然」「環境」などの言葉で束ね、『恵み』というキーワードで表現しています。

2. 活動・全体計画

(1)動物園学習(小学校)

- ◆目標
 - ①動物の飼育体験を通して、自然や環境、生命への関心を高め、愛する心情を育てる。
 - ②協力して飼育体験を行うことを通じて、連帯感や思いやりの心を育てる。
 - ③自ら課題を設定し、見通しをもって追究し、結果をまとめ、発表する能力を養う。
 - ④地域の特性や特長に気づき、積極的に関わろうとする姿勢を養う。

◆計画

月日	活動内容	飼育動物	時数
4月22日	動物園見学		2
6月16日	飼育体験・振り返り	ヒグマ・サル・テナガザル	3
10月4日	飼育体験・振り返り	ライオン・トラ・トナカイ・ウサギ・モルモット	3
1月31日	飼育体験・学習のまとめ	オタリア・アシカ・レッサーパンダ	4

(2)栽培学習(小学校・中学校)

- ◆目標
 - ①植物の成長観察や栽培活動を通して、自然や環境の大切さ、生命への関心を高める。
 - ②協力して栽培活動を行うことを通じて、連帯感や思いやりの心を育てる。
 - ③自ら課題を設定し、見通しをもって追究し、結果をまとめ、発表する能力を養う。
 - ④地域の特性や特長に気づき、積極的に関わろうとする姿勢を養う。

◆計画

	学年	学年テーマ	目 標	活 動
小学校	低	野菜は すごい!	野菜の栽培・収穫・味わう活動を通して、自然の力を実感し大切にすることを養う。	野菜の蒔種から収穫まで協力して観察や世話をを行うと共に、保護者や地域の方々みんなで味わい成長の様子や感想を話し合う。
	中	収穫アップ!	地域と連携し、栽培の仕方を工夫して収穫の質や量の向上をめざすと共に地域や自然の力に感謝する気持ちを養う。	地域老人会と交流し、収穫を増やしたり質を高めたりするための指導助言を得ると共に、野菜をプレゼントする等感謝の気持ちを表す。
	高	地域や世界に つなが	自然との関わりに関する地域の歴史や知恵を学び、食料生産に関する努力や世界とのつながりに感心を持つ。	栽培活動を通して地域の特色や開拓の努力などを調べ、世界の他地域と比較したり関連をまとめたりする。
中学校	全	未来へつなが	食育等身近な視点から食料問題・環境問題を探ると共に、未来に向けてできることを考え情報発信することができる。	栽培活動を通して生産や環境などに課題を持ち、世界的視野で未来に向けた改善策や自分たちにできることを考えて発表したりHP等を活用して発信したりする。

3. 活動事例

(1)動物園学習(小学校)

小学校では隣接する釧路市動物園において、年3回の動物園学習を行います。学年ごとに担当する動物を決め、えさの仕込み、獣舎の清掃、給餌…と一連の作業を進めていきます。命の営みに触れ、かけがえのない生命の尊さを学んでいます。猛獣以外は実際に動物に触れ、手から直接の給餌もさせていただきます。ペンギン、アルパカ、アザラシ、トナカイ、シロクマ、ライオン、ウサギ、キリン等々、6年間でほぼ全ての獣舎を経験します。



(2)栽培学習(小学校・中学校)

子どもたちは校舎横の広い農園で思い思いの野菜を栽培します。春には一人一人が課題を設定し、必要なことを主体的に調べ、地域の方々にもアドバイスをいただきながら栽培計画を立てます。種蒔きから収穫まで連続した活動の中で、植物の生長を通して多くのことを学びます。自分で設定した課題を追究しながら、生活科や総合的な学習の時間を理科や社会、道徳などに関連させて学習を深めます。

秋に行う「収穫祭」では、小学生から中学生まで、これまで取り組んできた活動をまとめ、大きなスクリーンに映しながら発表し、保護者や地域の方々にも見ていただきます。そして収穫した野菜を使い、調理実習を兼ねて料理を作り、保護者や地域の方々にも振る舞い、みんなで収穫の喜びを味わいます。



4. 成果と課題

(1)成果

①動物園学習

小学校の6年間でほぼ全ての動物と関わることにより、飼育員の方々の日常業務を知るだけでなく、その苦勞や仕事における工夫などについても体験を通じて深く知ることができるようになります。

そして、単なる一般来場客としての見方とは違う観点で動物たちへの思いをもつようになり、命あるものへの畏敬の念や命の大切さに気付くことができるようになってきています。

②栽培学習

春先から秋までの長期間にわたる継続的な活動に取り組ませることにより、忍耐強さが養われるとともに友達と協力する姿勢や積極的な課題解決の姿勢、自然のもつ力や恵みについて実感する心が育ってきています。

(2)課題

①動物園学習

特に課題として挙げられるものはありません。

②栽培学習

春先の畑おこしや農園の割振のための測量、ビニールハウスの組み立てなど、保護者や地域の方々の協力が不可欠となります。児童生徒の減少とともに、地域の高齢化も進み、協力体制の確保が難しくなってきています。